

2334

日本百將傳一夕話

十一

日本百將傳一夕話卷之十一

東都

目錄

○ 源義滿

○ 細川頼之

○ 大内義弘

○ 畠山基國

○ 上杉憲實

○ 細川勝元



松亭金水謹撰

- 山名宗全
- 北條早雲
- 三好長慶

以上九將目錄終

永田姓



足利將軍尊氏

源義詮 正二位 大納言

義滿 從一位 太政大臣

准三后 母法印通清女 法名通義

義持 從一位 内大臣 四代將軍

源義滿

人皇百代 後小松帝應永十五年薨 今安政三辰迄四百四十九年成

源義滿者幼歲雄偉柳營之威權於

是為盛近而内野之戰捷遠而筑紫

之凱旋領闔國兵馬之政所謂鹿苑

院相國是也

義滿承師之教而遊赤松則祐之飯後之時兵
庫既罷極のきの佳きと愛し近侍に謂ての
一し衆のその名の大を奇しと為義滿童名春王丸は

義満幼穉

明石の

景を愛ふ



源義満公



國四何日の日清平ありと加領之軍後う。同七年正月平賀義満躬大兵帥ひ西
山心伝の爲出馬の從大各千九人との勢方誘ひ受けり。兼池武政長及小出張十
余兵の先鋒赤松兩將とあはれ討けり。衆寡敵せず敗れし大宰府に據り又高良
山守將とあはれ軍の武威大々展ひ九州大方靡けり。頼之義満不謂ていふ。第
寇と替てあはれと今武政必死の兵を以て要害に據るは力と必取んせむ。我軍と替て
兵と旁見熟想ふ已不見て。速に備め九段の民人を教育し有功に封と仁と布べ及に
餌と功と入ん。こゝ高王師と班と。之苗と降と所以今の策に稱すと。兼池固守
つ降らばや守御教率と降ると。九段の士意と固に惣氏君の仁徳不懷ぶ。彼が
單管の土地捕て莫七頼ひと手付けや。とお軍頼之が練と容と日向と伴東大和と
祐弘と堀の大隅薩摩と津清久と堀の筑前肥前と武貳と授け。長門豊前と大内
氏弘と堀の豊後と大友氏と與ふ。その他功と賞と忠と擇ひ。賜賞悉く歆と。因て西

及盡く平らぎ。その軍に率ふ兼池と瓜分老更ふ。一族孤懸と守るのこ。こ
於て頼之書と遣し。兼池不和睦と招き請ふ。武政教相譲と。兼池和平ふけり。
因て頼之班と。兼池も肥後不帰と。軍義満飯沼一ひ。久々足利氏の武威を以て。
南朝の兵も目に衰。徳宗の武士競て幕府不朝す。翌年改元あつて永和といふ。
年義満始めて。天皇不謁。十月從二位叙ひ。二年七月足利氏冬。勢ひ堀と降と清
義満許と石見不率。四年、月室町不郎と構へ多く名を裁り。と。人稱と義満
沖所といふ。室町殿と称す。この年義満大納言に任じ。右大納言とて從二位に叙
せり。夫より後康暦二年義満從一位叙ひ。永徳二年義満左大臣と。右大納言の如
し。已に左大將不轉。藏人所の別當不補。禁裏の事と許さる。この年天皇讓位
あり。皇太子位不即。と。後不松天皇といふ。上皇改て院中に棲り。左大將義満が
別當と。永徳三年正月白馬の節不義満不招と。内辨と。同月義満と。以て淳和

此後とて足利氏小幡等々で准后の宣旨あり。永應元年正月、天皇元服、義満
 理髪と務め、明徳二年十月、大内義弘、六角満高と以て、南幸に就き、和を
 む。南幸詔と許し、乃腰裏小駕一行宮と奉り、八月、南幸三種の神
 畠。天皇に傳へ、大内義弘の宣旨あり。永應元年正月、天皇元服、義満
 七年天下始めて一統に帰せり。應永元年、南幸に上り、太上天皇と稱
 傳へ、應永元年十月、実時太政大臣と罷む。義満と小代え、清和親王の
 決に強て、平清盛有相と云ふ。武家に對て、不仕せざる義満、今を
 中む。まづ滿濟と云ふ。義満怒つて、帝位を篡ひ、人々を、杉原清華に准せ
 一と、上野と遷す。此況、信偽辨るべし。若初の如く、我が朝の月馬、龍の
 是より、後應永十五年、丹波満入道、義満ト云ふ。東隣、多けと云ふ。事、長久、大略、以

細川頼之

右日帝 明徳三年卒
今安政三辰迄四百六十五年成

細川頼之者、義満之輔佐也。其調護

之勞居多。勸之以平南方。擊九州。遂

為四國管轄執事之重。舉世知之。

足利陸奥判官
 義康三男細川二
 郎義季四代
 源頼春 讃岐守
 侍所引付頭入

頼之 右馬頭
 從四位下
 武藏守法名
 常久

頼元 右京大夫
 實頼春子

満元 右京大夫
 從四位下

頼之天下を以て己が任と、幼君を輔佐し、これを教へて、人君の道を知り、或はひに、後
 を承き、或はひに、歴々の懸て、義満の非曲を、義満に、傳へ、分毫も、君を、損
 後の、是より、先祖、義満、巨勢、玄仙の、いふ、吾、味、見、足利、家有、忠臣、孝子、唯、有
 良臣、頼之、一人、耳、と、実、に、確、確、と、い、ふ、べし

正井仁
一
言者之二

君三子

轉可憐之事

百等專一
又活卷之十一

應安元年二月日

武藏守



頼之
六人の
佞坊を
引夫を



あふ近藤平次兵衛登政より。弓箭の放実小精しく。且文章に閑て。其時をえ
は小世人。まろ碑とて。我獨醒。う。浮世で悟て。髪で薙て。續の國府小藝。
且暮書とて。う。閑清小送は道人あり。春二筆の醜で袖めて。緑樹の下に碑と進め
秋の紅葉の林と進て。薄衣に綿で被。松范露。五湖の樂。并由が集。山の安永を
慕ひ。濁世の塵と遊て。在て。頼之。早馬で馳せ。ま。系師小送けり。必改。あ
困く。碑と更に。その徴に。應ぜ。然。ま。補使節。再。小。及。て。今。碑。小。廻
き。系師小より。軍に。廻。已。あ。師範。と。ま。小。國。諸。名。傷。碩。の。傷
恨。才。雄。智。の。武士。等。地。未。て。落。中。に。充。満。傷。書。兵。出。て。鏡。く。若。若。後。毛。で
貴。之。文武。の。徳。と。慕。ひ。天下。の。風。俗。一。時。不。多。せ。ハ。實。小。多。傳。の。機。功。小。あ。う。か。く。て
應。安。治。年。秋。八。月。又。滿。新。亭。と。開。て。月。見。の。宴。と。興。せ。庭。小。五。色。の。砂。で。時。月。白。砂
小。落。て。照。く。う。赤。六。珍。樹。花。木。と。極。甚。蘭。の。夜。の。風。小。香。と。吐。き。紅。菊。の。月。の前。小。散。樂

以。その。夜。の。西。風。暮。雲。と。拂。ひ。寂。く。と。朗。く。と。世。界。一。般。畫。の。如。く。架。山。の。崖。に。及。橋。で
架。け。木。欄。に。倚。て。春。き。水。晶。の。玉。と。か。く。と。夜。光。の。珠。も。何。う。か。天。上。の。月。此。時。不。碎。け。墮
る。と。怪。ま。高。亭。の。床。小。香。炉。と。並。雜。舌。の。沉。久。種。の。名。香。散。と。盡。く。と。狂。き。あ。ぐ
ま。香。煙。四。方。に。お。満。と。扇。と。に。風。葉。り。浮。香。世。界。に。入。る。如。く。折。ち。夜。の。賓。客。
前。園。白。雲。基。云。必。下。月。卿。雲。客。と。集。る。既。近。外。様。の。大。小。名。の。板。椽。に。踏。踏。一。池。の
汀。小。敷。伸。る。紅。緑。の。毛。氈。小。坐。と。洋。と。ま。酒。般。の。最。美。と。盡。く。善。と。竭。せ。小。膳
餐。應。筆。紙。小。多。く。も。あ。ひ。ま。下。後。滿。碎。小。和。一。月。小。さ。ぐ。て。起。て。舞。ふ。頼。之。進。之。お
軍。の。袖。と。扣。て。若。く。是。天。下。の。武。將。不。備。と。て。四。海。の。大。器。と。仕。と。う。然。る。今。の。輕。忽。の
更。小。人。主。の。行。不。あ。び。う。や。碑。中。の。興。と。も。練。や。ぶ。あ。う。う。と。面。と。冒。と。の。ひ。け。と。あ。美
滿。赫。然。と。て。席。に。就。く。と。小。放。て。その。座。と。け。公。卿。も。程。う。邊。ぬ。あ。と。バ。法。候。も。後。き。と。選
ま。せ。り。か。と。又。滿。以。為。我。遠。碑。小。ま。興。小。周。威。儀。と。失。ふ。練。小。桶。可。と。然。と。と。の。諸。士

大内義弘の事

武家ノ百濟國琳聖太子の後あり。宣長元年平末太子夢の占てて舟で渡り彼
の百官百司とてて風帆に任せ空海万里で渡きて。同年二月二日周防に依波郡多々
良の渡に著きけり。國司とてててて。奏聞に及びけり。推古天皇の詔によりて。
長門の武大内の縣に假小宮室を營。琳聖太子とてて。推古天皇の詔によりて。
良の渡に著きけり。國司とててて。奏聞に及びけり。推古天皇の詔によりて。
八代あり。周防の登房の子に登房の嫡満登の世より武家とてて。元暦の元久あり。
家元あり。西海に軍功あり。その愛して長門の縣に著きけり。夫より二代の周防に依波郡多々
永十一年惟康親王の時百濟の兵と招き。國司とてて。後以千時執權北條隆興守政
村周防の武と信て和とて。その後正壽院道隆入道弘世の北の文。小松幸の國母とて
う。統卿百官拜趨の終とて盡。圍繞湯作流る。終る。其身國と係せ。總て。二箇國

の大守とて。周防に依波郡とて。構へ。系所とて。小松とて。依國清水北野愛宕殿。山盡
く。建。其。子。左。系。太。夫。氏。弘。幸。は。太。祖。琳。聖。太。子。より。世。系。千。一。代。あり。

附て。弘。幸。の。所。に。後。太。平。記。の。説。あり。と。て。彼。書。の。多。く。杜。撰。と。説。あり。て。取。捨

へ。看。る。人。の。心。あり。と。て。就。中。周。防。の。弘。幸。の。時。百。濟。の。兵。と。招。き。鎌。倉。と。攻。め。と。て

ま。弘。世。の。北。の。文。小。松。幸。の。武。母。と。て。更。に。疑。ひ。ま。き。弘。幸。の。何。と。て。後。弘。幸。の

弘。幸。の。所。に。後。太。平。記。の。説。あり。と。て。彼。書。の。多。く。杜。撰。と。説。あり。て。取。捨

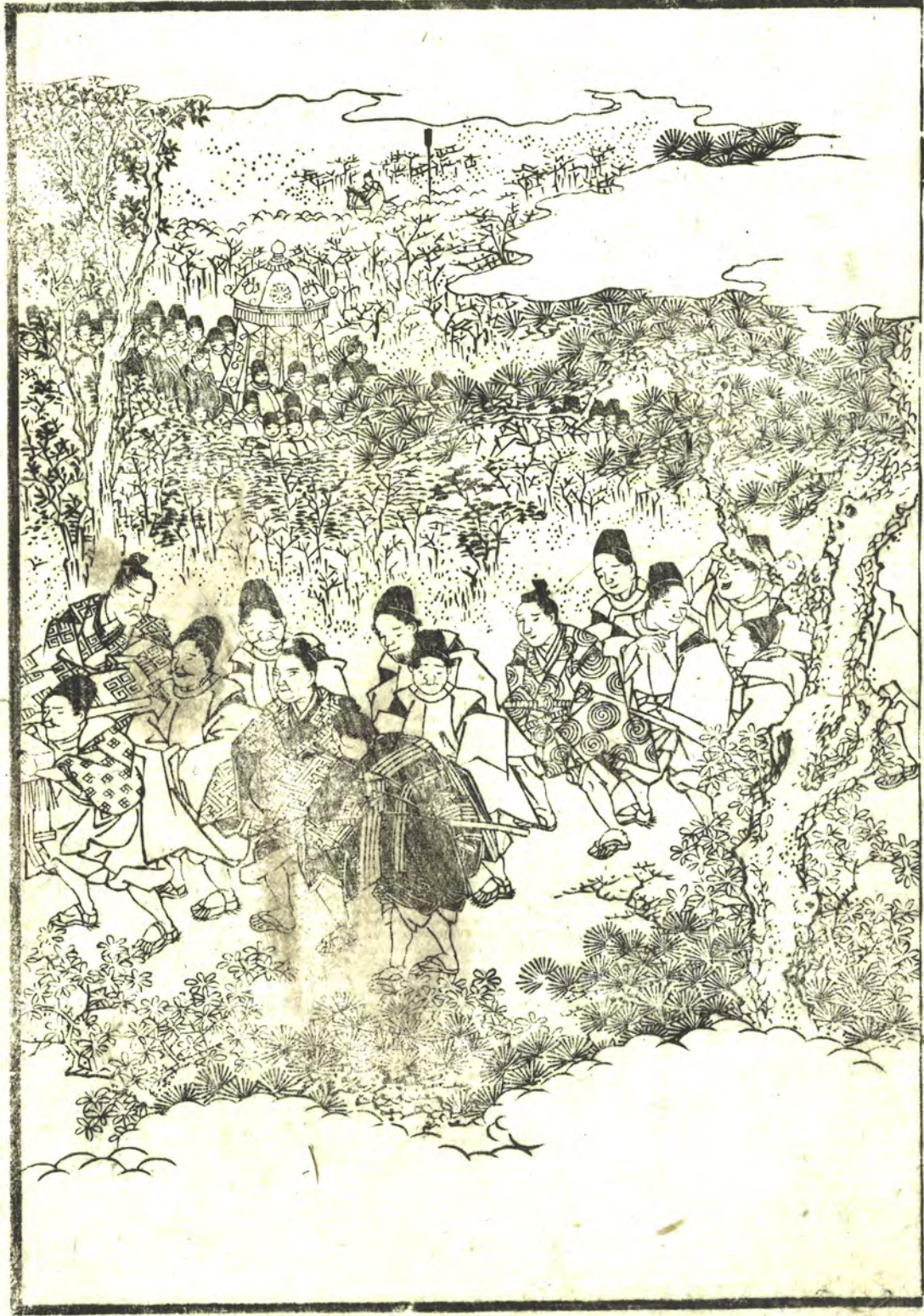
の。所。に。後。太。平。記。の。説。あり。と。て。彼。書。の。多。く。杜。撰。と。説。あり。て。取。捨

の。所。に。後。太。平。記。の。説。あり。と。て。彼。書。の。多。く。杜。撰。と。説。あり。て。取。捨

の。所。に。後。太。平。記。の。説。あり。と。て。彼。書。の。多。く。杜。撰。と。説。あり。て。取。捨

の。所。に。後。太。平。記。の。説。あり。と。て。彼。書。の。多。く。杜。撰。と。説。あり。て。取。捨

の。所。に。後。太。平。記。の。説。あり。と。て。彼。書。の。多。く。杜。撰。と。説。あり。て。取。捨



南北

和歌

三種の神器

京師

入



けは氏清の二万餘の兵と卒して渡小川に氏清の二千餘の兵と下る羽に也。同日氏清が先鋒山崎上流分兵數が弟小林修理亮為總て營に進んで大官に至る。義弘力戦して連うに彼ら修理亮が傍小進む。小林自ら勇を揮ひ大肉が兵と推く。大肉が兵敗を以て弘を牙と爲し戦て林にうろあひ。挑み戦して半餘合。竟に修理亮が首を獲る。こお放て山崎軍勢大肉が勇を奮く。後數の旗と棄面を掩ひ系兵に擁し。潛小將軍と窺へり。然れども富田某捨津左馬介等こぞ知る。取圍を解す。賊軍のうろたへたる。また下滿幸が先鋒及氏清が二陳二陳縣の防を起すがごとく。縦横に蒐まは。畠山其國精銳と進め進み撃て時と處を度し。度し度し功を顯ひ夫より開戦入れと或ひは逃ひ或ひは退き。滿幸が二陳土屋播磨守進兵を以て必死と究む。勇銳一以て千が半の細川幸久畠山其國陳を列せり。こぞ防ぎ。土屋もこぞ討死。氏清はて大肉を。自刃兵を勵まして進に系師に礼入。赤松義則大肉を以て防がん。と利を失ふ。氏清は

小川で戦威を張はる。軍味方の敗す。て今川佐木土屋富田細川畠山斯波河川荒川土橋仁木太友清津武田小笠原等。こぞ小隊分をうて八方より襲て蒐る。その勢宛も雲霞の如く。関の声矢叫びの音乾坤とぞ。為に震動。山嶽こぞ。為に震動。山嶽氏々同藩氏同七部。各氏清。大肉懼して逃亡。餘軍もこぞ。敗れ。氏清は。小川を以て餘兵。こぞ。戦力竭き。三色滿範と戦ひて。氏清こぞ。討とる。

傳小云く氏清の弟小林修理亮の廉妻の姉妹を嫁し。こぞ。可。以。就。軍。を。榮。さ。る。に。及。び。氏。清。は。對。し。て。い。や。す。我。今。八。幡。小。陳。す。と。源。氏。累。代。の。宗。廟。を。神。具。我。我。軍。に。共。し。賊。を。撃。て。革。創。の。功。を。遂。げ。さ。る。に。及。び。の。備。初。の。如。く。と。い。は。れ。て。管。領。と。な。る。と。小林。は。て。大。哭。し。悲。き。う。君。の。こ。と。幕。府。累。代。の。大。臣。を。代。り。太。意。と。懷。き。數。及。小。候。と。う。然。る。小。の。大。恩。を。忘。れ。ぬ。と。君。を。撃。て。殺。ん。と。い。ふ。神。明。真。實。力。と。罰。へ。り。是。を。思。ふ。と。い。は。れ。し。も。容。ら。し。び。脱。小。澤。の。馬。に。及。び。こ。の。時。小。の。争。ふ。

磯賜の喜びでさき。明日の戦ひ小杉の教小教倍の衆ありとも決て勝利あるべ
在下先鋒小杉とて快く討死し。衆下小恩と報せし。と對けし。氏清も。將小徳
ては。事。備。鹿。忽。の。軍。や。せ。し。と。統。令。教。と。副。小。林。前。の。名。を。合。兵。一。戰。小。討
死。人。実。に。は。る。の。道。と。知。さ。で。不。幸。に。と。の。患。小。遭。夫。首。陽。の。威。と。慕。へ。八。衛。の
難。の。死。と。致。す。小。至。さ。で。も。さ。と。過。さ。し。さ。う。び。と。小。土。屋。播。磨。守。も。累。代。山。石。の。家
に。さ。の。難。と。突。ま。さ。の。始。め。屢。滿。幸。と。誅。む。と。も。徳。さ。の。さ。却。て。疎。人。八。土。屋。以。為
陳。路。終。る。然。ま。で。も。主。に。背。く。八。石。の。義。小。飲。さ。如。し。軍。に。や。と。早。く。戦。死。し。其。恩。小
報。の。い。や。と。の。月。に。至。り。從。卒。共。に。五。十。六。編。金。と。破。る。再。び。骨。中。で。ス。ト。と。盟。ひ
戦。場。に。や。と。果。然。と。人。悉。く。戦。死。せ。り。將。軍。家。傳。は。忠。義。と。感。ト。賢。儒。と。て。そ
屍。と。葬。め。その。墓。に。碑。と。節。操。と。世。に。表。し。め。り。と。の。二。子。の。傳。を。弘。が。小。傳。小
拘。む。と。い。は。ど。今。の。用。あ。さ。と。感。榮。の。餘。り。と。小。録。と

かてその盟明徳二年。石の義領と復収し。とて分て結ぶ小嶋。時大内義弘が。弘
泉記伊の西国で結ぶ。その法應永四年に至り。兼池貞頼少貳忠資。謀叛て起し。千
葉大村是野。赤星等の諸將と結ぶ。九州二橋と操略。以。因。て。主。内。悉。く。是。小。島。を。兵
勢。微。り。と。と。未。降。小。嶋。え。と。大。内。公。義。弘。小。令。と。の。れ。と。鑑。め。し。弘。諸。軍。に。お
し。西。海。小。下。向。せ。り。少。貳。忠。資。前。小。打。出。數。里。に。拠。て。と。と。守。は。弘。進。入。で。と。と
は。日。あ。が。馬。が。岳。の。邊。で。屠。る。赤。松。半。切。の。戦。城。と。降。し。威。勢。固。の。勢。ま。が。如。し。少。貳。敗。て
太。宰。府。に。降。る。弘。稱。も。兵。と。進。め。赤。松。肥。後。小。礼。入。し。火。と。縱。つ。て。と。と。攻。む。兼。池。が。兵。恐。怖
と。と。弘。弘。降。と。け。り。と。と。に。依。て。貞。頼。八。代。の。盟。と。守。は。し。と。と。從。卒。僅。か。五。十。騎。可。り
大。内。が。勢。雲。霞。の。如。く。窮。敵。と。と。死。に。如。り。主。僕。終。小。自。盡。せ。り。と。と。小。杉。で。肥。後。平。ら。き。続。て。筑
前。の。少。貳。と。攻。む。少。貳。が。兵。大。小。屋。一。千。葉。大。村。と。共。に。弘。弘。降。る。弘。弘。一。國。と。解。き。九
尺。既。に。定。り。と。十。月。赤。松。小。降。る。將。軍。家。實。一。の。弘。弘。前。と。結。ぶ。と。と。う。驕。慢。の。心。を。生

ど。諸士と傳へて、應永五年に至り、朝鮮未貢の事あり。勿國の使ひ朴致ある
者、種々の寶物と齎し來り、將軍家義弘をて。こゝに應永五年、將軍家義弘が孫、重
用を。こゝに、永隆小僧けし、管領四職の面々、義弘我々に慕ふと、激る

按るに、斯波細川、畠山、の二氏、これに、不仕せざるなり。當時、こゝに、管領と稱し、
名、赤松一色、永隆、の四氏、更々、侍所、の司、補せざるなり。こゝに、こゝに、四職と稱し、
こゝに、怒るを、含じ、こゝに、意に、あき、こゝに、京、河、の界、小、據、て、城、を、築、き、主、波、宮、内、少、輔、給、事、及、
比、山、為、氏、清、き、こゝに、若、滿、氏、同、七、郎、也、まゝ、こゝに、永、隆、五、郎、左、門、こゝに、こゝに、不、應、ど、美、濃、丹、波、逆、の、
こゝに、小、旗、を、奉、ぐ、是、小、僧、を、永、隆、の、邊、候、と、下、へ、と、概、難、に、將軍、家、給、事、の、ひ、主、波、宮、内、少、輔、給、事、及、
こゝに、代、り、の、代、り、不、高、絶、小、逆、に、こゝに、是、丹、波、の、女、主、小、名、を、攻、め、こゝに、將軍、躬、八、幡、小、僧、一、畠、山、基、滿、新、
波、氏、の、細、川、頼、元、等、と、和、泉、小、逆、の、義、弘、を、攻、め、こゝに、將軍、躬、八、幡、小、僧、一、畠、山、基、滿、新、
慮、に、困、り、こゝに、義、弘、城、小、火、を、縱、き、こゝに、更、々、こゝに、尾、張、守、滿、家、の、子、を、爲、小、討、と、す

足利上總介義兼
宗領畠山遠江守
從五位下義純
五代之孫
源家國 尾張守 治部大輔
國清 阿波守
入道通善
關東執事
義深 尾張守 三郎
基國 右門督
法名德元
滿家 左門督 從三位
法名道瑞

畠山基國

卒年未詳義弘退治の軍功應永六年ヨリ
今安政三辰迄四百五十八年歳

畠山基國者義滿之管領也應永年
中大内義弘叛據泉堺基國往攻之
遂斬義弘

上の家系にのぞき、奉承の源姓を足利の氏族之然るに畠山重忠が妻は右衛門尉
遠元が女なり。重忠は嫁ぐ小次郎重秀と生む元久二年六月にまづ、重忠は老
の爲、小次郎の討ちとす。武氏二侯月に戦死し、重秀もまた二所死せり。夫よりその
女上總介義弘に嫁し、義弘を生む。義弘は幼少より母方の氏を冒し、こゝに

上杉憲実の話

當時鎌倉の管領八尾利尊氏の三子左兵衛督基氏の四代従之佐左馬権頭持氏
少くは老上杉安房守憲實素文武の道不達一々若て輔佐して政道さう邪
あけしと諸士ことと教ひ貴ととの令不應ざるあり。然れども永承二年二月
系師四代將軍持氏の子後量に職を譲り難髪とて道詮と號し後量治世二年
小て同十二年に薨び。因て後持再び出て政事を決し。ひひが正長元年に至つて
病篤し。慈王とて繼嗣あらばさうと鎌倉の持氏とて。嗣一めんとして。果さず
千時常願寺山満家右清水の社頭不請で。神の示に従ひて。その繼嗣を定めんと。圖
取しに後持の弟青蓮院後圓不達とて。小放て還俗さう。若て後宣と改て。室町殿
小入り左馬頭不任。持氏とて大小憤と系に替くの胸あり。かゝる後宣將軍に備り。若
て後教と改めらる。小承享八年の秋信公ある村上頼清牧年小笠原政康と。關東の

とありが。遠回へつて。打負て。持氏不援兵と請ふ。持氏桃井連に。小兵と授け。救えん
し。時不憲実練め。そのと。と。信濃の東に。ある。關東の領不あり。小笠原政
康。今將軍家の山陣範。ある。然るに。拒て。論て。村上を。援け。小笠原。て。替へ。將軍の。怒
つ。の。入。と。必。せ。る。今。鎌倉。諸士に。長。と。て。威。て。東。に。揮。ひ。の。り。由。將軍家の。ある。由。を
の。と。是。不。替。き。の。り。と。滅。亡。と。招。く。と。嚴。に。練。め。け。し。と。持。氏。派。と。こと。と。止。て。その。心中。秘
の。り。に。憲。実。と。疎。む。し。と。ど。も。諸。士。悉。く。教。ふ。小。う。奈。何。と。も。す。ぎ。き。う。ち。く。その。ま。不。道
小。け。り。初。て。持。氏。の。近。臣。一。と。と。憲。実。と。上。杉。憲。直。の。心。奸。佞。あり。能。て。寝。て。阿。諂。の。小。人
あり。け。し。と。ど。も。君。の。心。不。快。ひ。お。氏。妻。と。と。終。ひ。然。る。に。兩。個。の。屋。裏。ある。憲。実。と。快
う。ひ。の。り。に。も。く。退。け。し。と。後。も。巧。と。あり。け。る。処。の。頃。持。氏。不。快。の。ま。と。う。奈。と。折。小。福
種。と。後。と。う。け。し。と。持。氏。と。い。ふ。と。と。得。て。那。一。色。と。と。と。憲。実。と。終。一。めん。と。小。福。因。て
桃。井。連。と。木。戸。後。河。守。等。兵。と。引。て。鎌。倉。不。集。り。け。り。ある。早。く。も。彼。と。又。憲。実。不。親。む



將軍教罪て責てあつ小糾一のつて。憲実奈何とも詮方あり。鎌倉の永安寺に於て。
 持氏終小自害せり。その子義久も報せよ小報以上杉憲重二色直亮。その除隠縁に其
 廿老盡く小終せり。因て園東平安寺及び諸士推て憲実で管領とせんとせ。憲
 実曾て喜びを看て殺その賊あり。何ぞこの賊で潰さるや。とこの清方と園東の管領
 と。その身利髪と長標と号し。長壽院に赴き持氏の影前に於て自殺せんと欲
 せども。痛後きて。家人等とて押止。劔を奪ひ活療を加へ。藤原の道場へ遷す。後小
 清寺に移り住む。而て閑客を謝して再び人名の事とて棄て。是より後結城合戦小軍
 の令下るといふ。終て弟の清方に代らる。と國史畧にも載らる。と云

按るに足利學校の小野篁の建所。の人博學宏才にして世小文殊の化身と稱ひ。
 終小學校を嘗て孔子及び十哲の像を遷く。後世より類廢して下野足利の所を
 存せり。足利義兼當社で再興。理具上人を招かる。後田原にて是氏再興と云

足利陸奥判官義
 康二男細川二郎
 義季五代

源賴元
 右京大夫
 管領頼義養子

満元
 右京大夫

勝元
 右京大夫
 從四位下
 武藏守
 龍安寺トラス

澄元
 右京大夫
 從四位下

高國
 左馬頭
 從四位下
 右京大夫

細川勝元

人皇百代 後土御門帝文明五年卒
 今安政三辰迄三百八十四年成

細川勝元者為源義政之管領山名宗全

欲立義親為大樹與勝元相戰于京洛

兩軍互數萬相持年久宗全病死義親

不得立應仁亂是也

或人勝元と稱く。宗全義親極威小。勝元勢て數年市を暴行
 と稱く。人怨と衆怒り。の時を待て。就候に就て。天皇幕府小請て兵を起さば。
 一舉に殲すべ。勝元計慮とみ。必力と以て角をなす。竟に十年の動亂と云。と

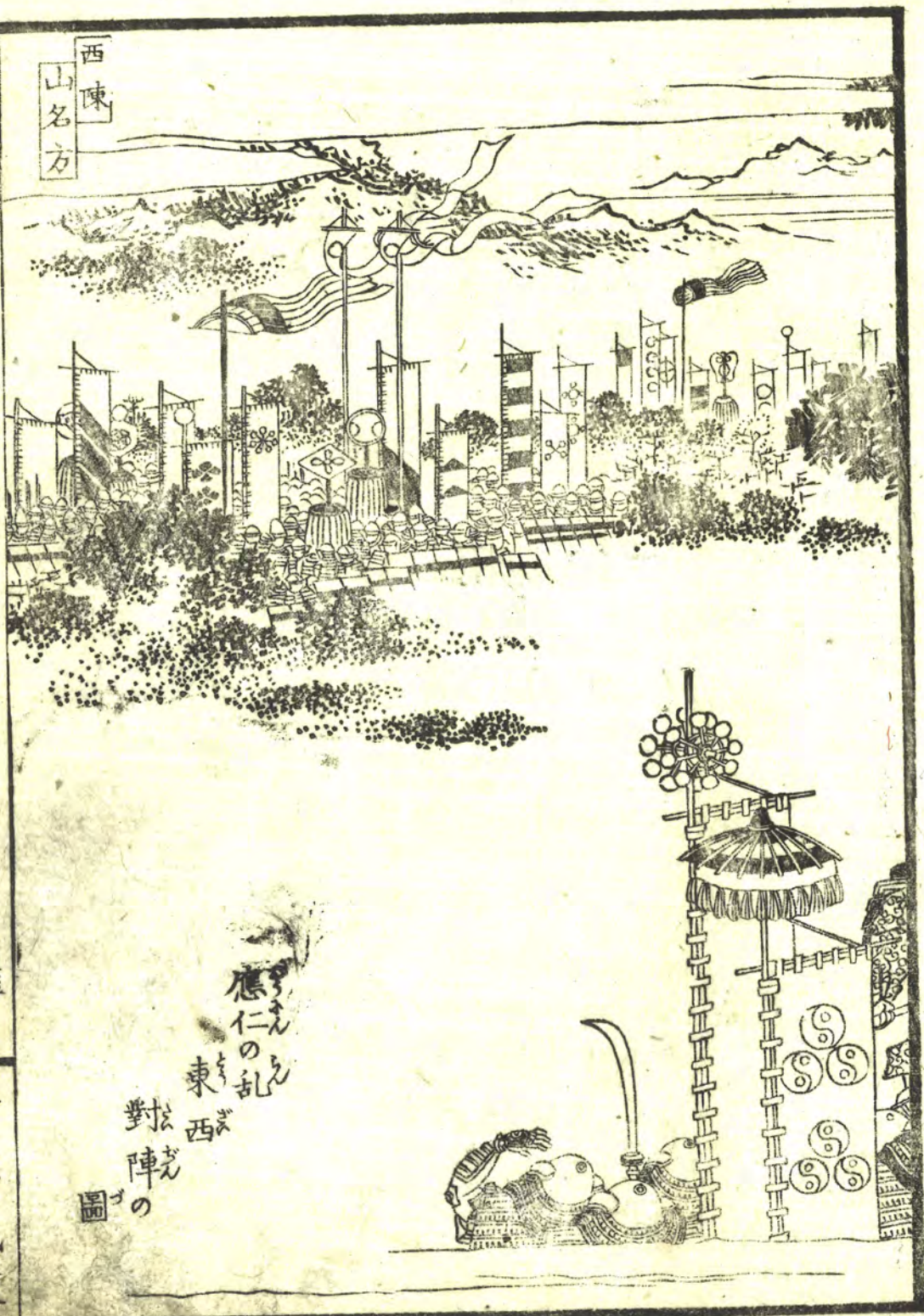
卷之五

山名宗全
當時の史傳と致るに兩府ともは足利家の氏族ありて我も勝元の宗全を婿たり。我
とび互に親睦をたまふを脱小應仁の乱は及びて東西の觔骨となり。洛中洛外を初
揺。天子上皇と婚あり奉り。杉家清華貴族の故も。また兵衛の餘殃に罹り。方民
塗炭に落ちたり。こと傷あがり。將軍家の嚴あるが故に。いづれも。實に射おの我をに起
まり。また。いづれも。勝元ハ才智衆小勝るなり。文安二年十。歳。少。管領職に任ぜり。と。
故。頼。隆。の。疑。を。逐。て。政。道。私。あ。り。け。り。と。名。宗。全。ハ。その。始。り。逆。賊。赤。松。満。祐。と。殊。し。その。
功。小。固。て。播。磨。で。揚。り。是。より。威。勢。稍。く。衰。ひ。榮。隆。散。集。餘。つ。と。ま。ま。で。猶。心。に。飽。て。折。
さ。り。管。領。の。家。を。襲。て。權。柄。を。獨。握。ら。ん。と。企。つ。る。こ。も。に。因。て。畠。山。は。本。と。の。あ。ま。り。政。
長。と。逐。ひ。実。子。義。就。と。て。その。家。跡。を。継。せ。ん。と。仇。せ。り。と。き。是。の。理。解。こ。が。く。勝。元。と。

商議して成就せしむるに政長とて入るに徳本怒つて將軍に請ひこゝとて殺さんと要する
 とも勝元其まゝとて果さず然るに勝元宗全と謀り推て政長と畠山の家督と
 其しその父ある徳本と相確執ひ固て洛中物惣一と名教之細川勝久兵と帥ひて
 幕府で衛は勝元宗全兵と卒て徳本が飯で圍む時小徳本が家人等もとて其主
 の不義を疎と多る宗全に従ふより徳本敵討しが巨兩將進て徳本が飯を燒
 て焦土とて徳本遁して修狸太夫満則が飯に入る義統をよそ東で没落し徳本
 必して建仁寺の西末院に蟄居る政長の家跡で繼ぐこふ於て細川勝元政長と
 ねて將軍にねて弔死とすに兩將が我意で恣にするで怒る不徳を待て見ふふ
 勝元陳謝するに能をぞ家臣破谷某が所為と謂て罪で謝ひ將軍義政怒解
 て政長を徴しつゝ然るに宗全も為擔しつて情を猶解ひ兵を以て誅戮をせし
 ころんとせしけしは勝元頻々よそとて謝し宗全もまた書文を捧ぐ固て赦しに

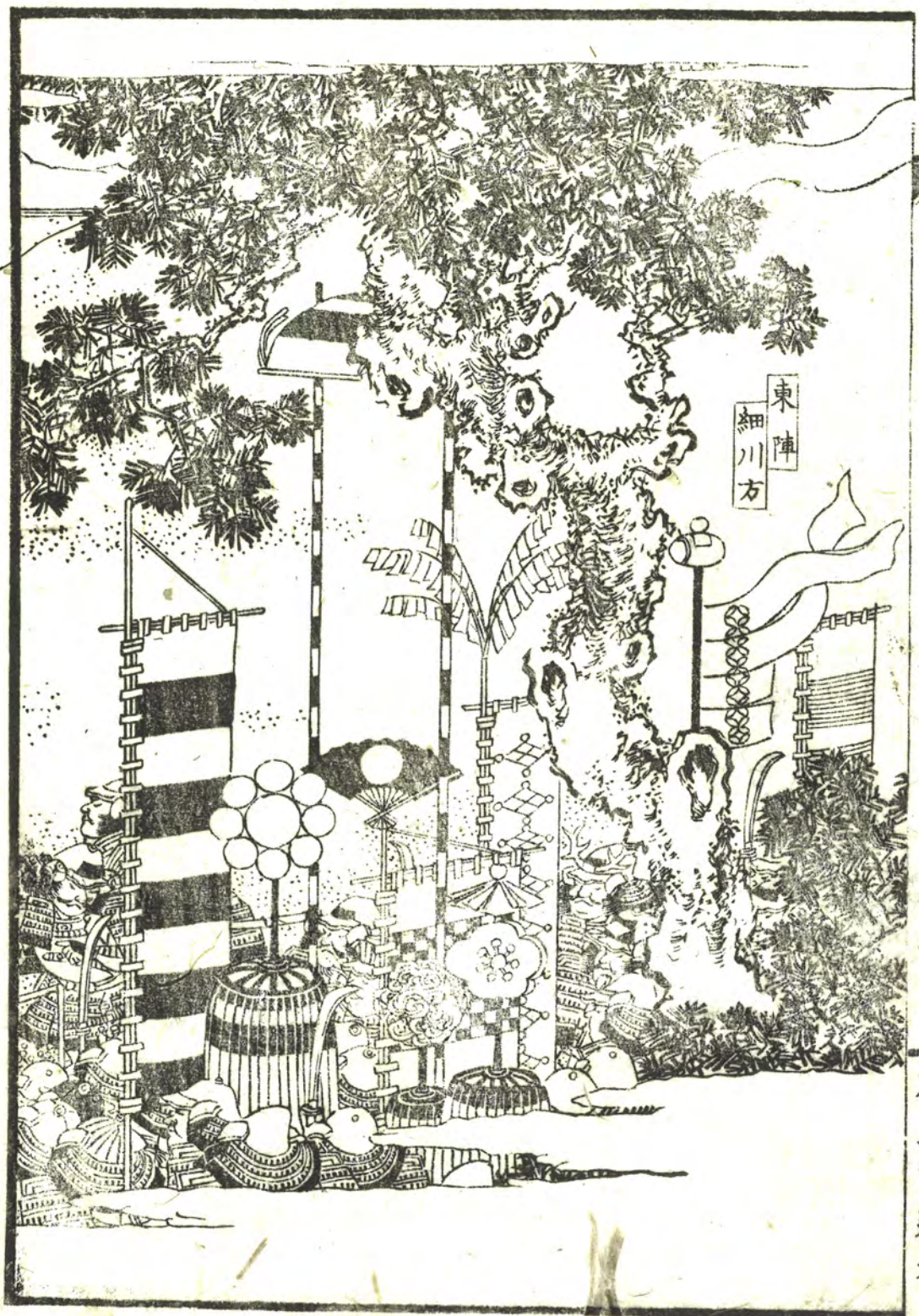
久しと宗全個馬に發着せり。是より高細川成之將軍家に於て奮功あり。赤松の廢
 絶ハ滿祐が逆より紀也。自業自得ありのみならず、また、喜とて折あふべしと云ひ、
 さらば這回宗全將軍の勅令で得て威勢挫けり。この時と違へりといふ。及滿祐が子彦
 次郎教祐との逆弟彦五郎則尚小奮勇播磨を獨りんと頻りに嘆訴をせり。此
 義政討して宗全を領する所の播磨を奪ひ、彼兩人共んとし、あらずして教祐則尚
 播磨に至りし者、守護大田垣大炊介等々、夫庭に迎てことと領以宗全を討て大に怒り
 兵で率て播磨に入らず、赤松と相戦ふ。教祐則尚敗走し、則尚は備前より自殺し、教祐
 勢及の北畠に奔る。宗全を取て是で許さば、ぬれ教祐も自殺せり。宗全是より洛に入
 り、敢てその面世も多。威權ハ為の月々十倍せり。ことと康正元年より、是より高細川山
 長統系親を没落せしむ。河内を若江の城主遊佐河内守國成は是で逆て、孫を
 巡らし。和及江畠の名に奔向し、政長と、慶長と將軍を互に、この両將小令にて和

西陳
山名方



應仁の乱
東西
對陣の
圖

東陣
細川方



百非傳一ノ言卷之十一

君玉堂藏板

小將愛上万里小路の政長の姉の跡をとり、政長を追跡して腹きんと軍慮を廻

とぞ書うつける。然る昨日までも紙川系極上の急で持せ政長と一味せし所も今日の



五條早雲

早雲將獵小

假託て

大森筑前が

小田原の

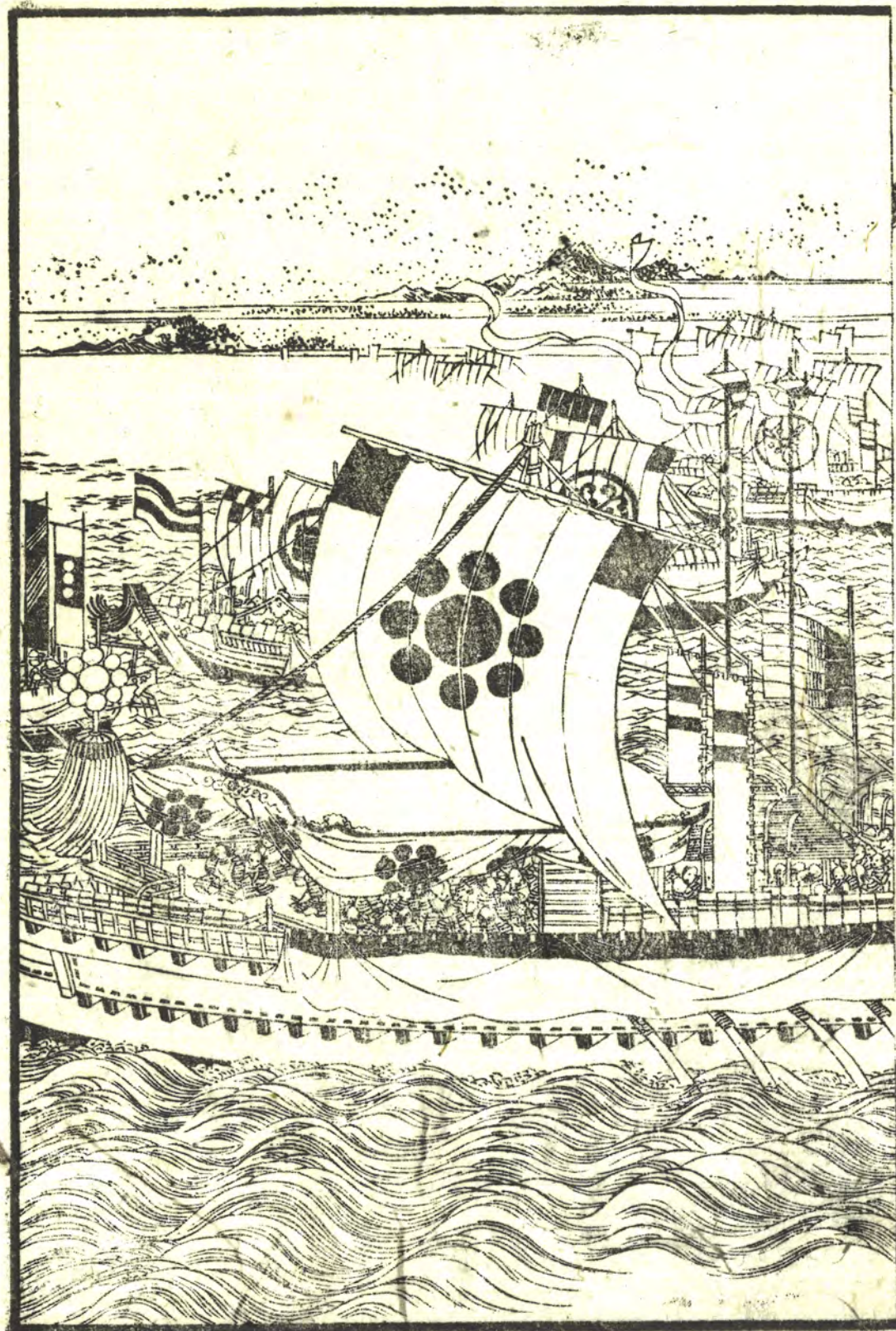
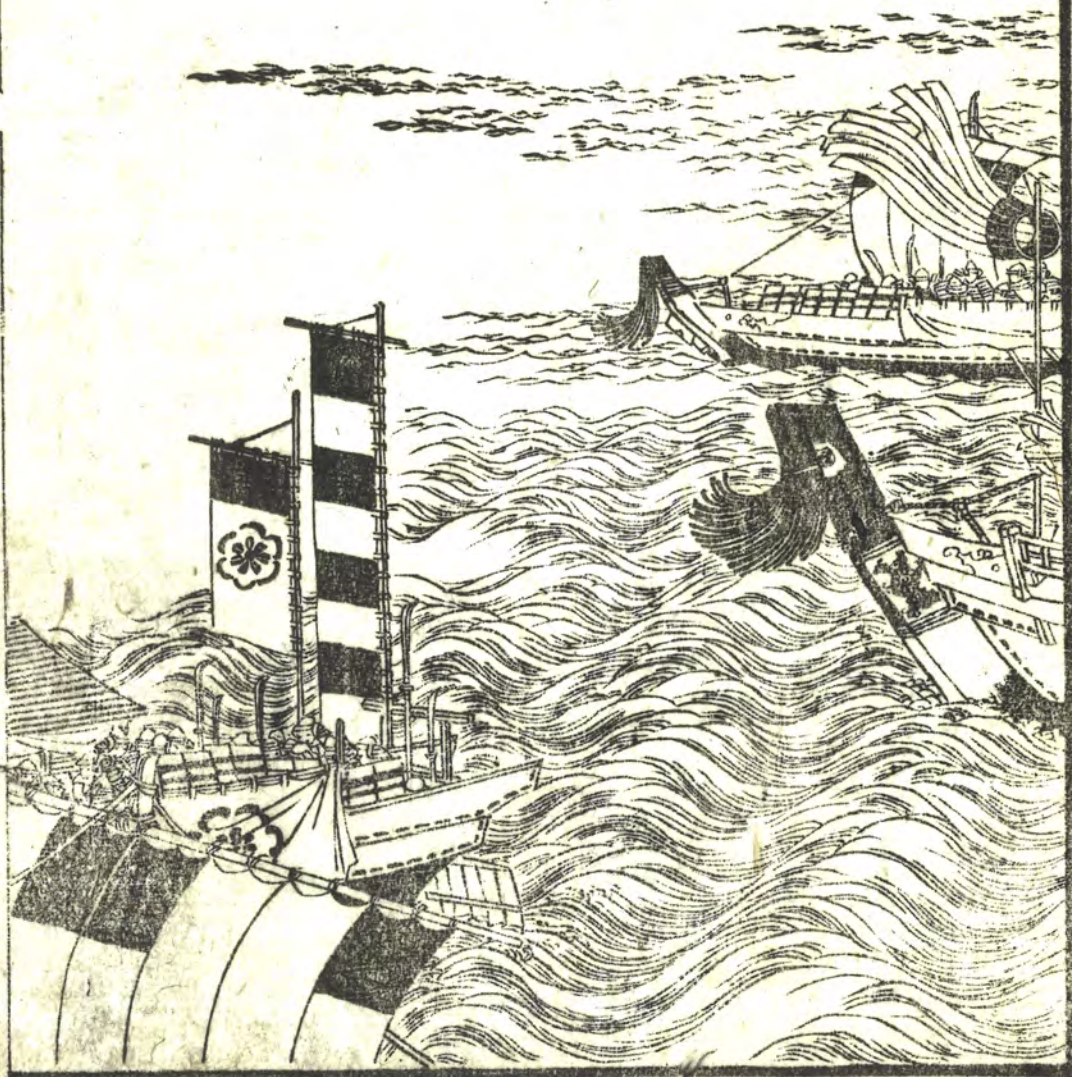
城を取居



初め里利將軍の軍の所せ。細川氏世四王と領。頼之以来相繼で。滿流にまゝ常領にあり。系陣も在て上の屋形と号し。頼之の弟於春守。滿之阿波守。阿波隈波の同族に在て。下下の屋形と号し。然は家政元継子なり。香西又六が計らひ。九條關白満隆の妾子とて。香西より細川九条澄元と号し。三好長輝とて。破政元を謂てのそ。香西とて。五五の同姓とて。以て今氏族の内。五々人なり。何ぞとて。舍て異姓で。五の五と。竟に細川義春が子澄元とて。以て家跡とすむ。香西元近大に怒り。逆ひ叛く。の心で。奔り。近江を金某と計り。竟に政元と居室に殺し。澄元阿波に在て。とて。破三好長輝等と。千餘騎を率て。遠江阿波と奔行す。香西元近大に澄元と奉り。赤西元山に城を構ふ。澄元が兵路。ふと。系軍。百橋を隔て。香西が陳に對す。時。元近大の家。長波。伯邦元。射し。て。戸金を殺す。尋で。香西が射殺し。け。と。餘黨。大。潰。元。も。は。澄元が。軍。出。に。迫。り。澄元。も。ま。ま。

害せしむ。こふたてに建は滅び。忽ち洛中平治せり。こふ前將軍義尹（後の義植といふ）に義材（義材といふ）を
 頼む。こふ時、明應二年夏四月、畠山政長が清に應じ。畠山義就が義孝を攻むにむす。
 細川政元が幸に應じ。終に政長を殺し。政元が家人物に紀伊
 守。是で頼り頼る。陣を窺ひて、必死を命ず。主従共小十六人、伏し、竊く周防小三。大内
 義興と遇ふ。義興喜く。是を秘す。義興に往きて、東師を窺ふ。こふ細川政元が、お將軍義政の甥。
 義通とて、結嗣し。左馬頭小任下。義高とぬめ。同二年十二月、仁美大將軍に仕せしむ。
 こふ時、義の政のつひなり。こふ後、文應二年、参預小任下。再々澄と改ら。初て永正五年に望。
 細川一家の礼起り。政元脱し。家人の爲に、殺せしむ。こふ時、澄と改ら。初て永正五年に望。
 翌永正五年四月、大兵を率て洛中に入る。細川澄元が、好長輝。方持を率て、松原小三。是を防ぎ
 戦ふ。義興が、挽く。小三、澄元四、其に没落。義澄將軍に及ぶ。こふ時、周て、義尹が、洛
 中。再々軍の戦ふ。是より。五月、好長輝。その戦事、雪入爲、俗に木室橋と相物。

細川氏綱
 長慶と計
 大兵と率て
 京師小
 攻入



兵を率て系於近江。近江の國、河内、河守通を以て陶入道武田親信、島津氏、前金貞宗、その後の
 統を以て傳へて、之を軍で逐ひ殺す。其時、大敗を蒙る。躬戈を執て敵を討つ。その子、長光、長則
 等、しる方通へ入て自殺せり。おふ細川高玄の民部少輔政春の子に、政元、小督、政元、
 率て、後、後、元と稱し、争ひ、確執れ、及ぶ、所、永正七年春二月、松久、小、開、戦、高、玄、元、
 戦ひ、負て、近江、小、争、つて、勢、けり。其、後、永正七年六月、永正、元、病、死、す。其、子、
 氏、細、藤、賢、元、と、幼、穉、なり。高、國、親、志、を、得、て、松、久、と、伯、父、に、依、り、以、て、武、威、と、
 張、り、國、で、又、縣、を、廢、し、肩、を、重、ぶ、る、事、也。是、より、同、永、正、十、五、年、大、内、義、興、系、降、つ、
 一、年、は、傳、へ、く、う、義、植、羽、羽、異、と、失、ひ、て、ま、す、く、威、柄、を、廢、れ、及、今、高、國、志、に、上、威、を、終、
 法、制、不、持、き、權、勢、を、振、つ、て、柳、營、を、據、む。義、植、秘、の、事、を、忍、び、系、降、つ、て、法、制、を、
 國、で、高、玄、相、計、り、及、此、の、子、長、晴、を、捕、り、以、て、系、に、送、り、自、幼、主、に、補、佐、し、て、遂、に、威、を、
 ひ、政、事、を、管、領、し、か、く、大、永、七、年、に、至、り、先、亡、の、子、長、輝、入、道、奇、雲、一、に、
 一、に、系、を、傳、へ、く、う、義、植、羽、羽、異、と、失、ひ、て、ま、す、く、威、柄、を、廢、れ、及、今、高、國、志、に、上、威、を、終、

海雲。師と帥て洛に入る。高玄、親、金、孝、宗、と、桂、河、小、達、入、戦、高、玄、が、兵、大、敗、る。長、基、入、
 道、勝、れ、系、に、列、を、擾、し、て、遂、に、時、孝、宗、の、好、が、軍、の、援、を、求、め、出、す。孝、宗、衆、小、先、立、
 て、戈、を、執、て、奮、ひ、戦、ふ。之、好、が、軍、兵、忽、ち、死、せ、り。長、基、躬、敵、に、ま、り。既、に、創、を、被、つ、て、
 挑、を、戦、ふ、と、能、は、ず。兵、を、引、て、河、以、に、飯、は、か、く、享、祿、四、年、に、至、り。之、好、海、雲、澄、元、の、子、細、川、晴、
 元、と、守、り、軍、を、整、え、高、玄、を、撃、つ、と、河、波、を、奔、る。高、國、は、て、是、も、ま、く、軍、兵、を、使、し、大、王、を、
 の、ま、に、使、て、隙、を、得、る。海、雲、晴、元、兵、を、停、せ、攻、戦、ふ、と、い、ふ、急、を、う、る。高、玄、頼、に、敗、る。之、を、傍、に、退、
 き、る。民、衆、は、入、り、壺、中、に、匿、る。之、好、が、兵、逐、迫、り、く。終、に、高、玄、を、害、し、けり。こ、に、於、て、之、好、が、威、
 權、系、統、及、び、中、玉、に、振、ひ、既、に、その、主、晴、元、を、り、て、己、が、麾下、と、る、と、針、を、晴、元、と、と、忍、
 憚、り、朽、木、に、在、る、後、晴、と、逆、執、權、と、て、威、を、争、へ、ど、猶、之、好、が、威、勢、に、對、せ、ず。國、で、晴、元、
 海、雲、と、縣、一、衆、及、燭、の、浦、に、殺、し、是、より、洛、中、靜、謐、く、敢、て、犯、す、者、あ、り、けり。海、雲、の、子、
 之、好、長、慶、の、怨、を、雪、め、ん、為、天、文、八、年、に、乃、次、峰、如、く、て、廢、系、降、つ、て、廢、系、降、つ、て、廢、系、降、つ、て、

邪に割據する者、計る暇あり。と小放て將軍の賜にあとでもあれども。その故元は應
 ずものなり。と松永久秀の備前行館より長慶が子及長女を罵つて瀧へ已む所
 とあるを懼と潜れてきて焼殺し長慶更にととわづび大に歎きて一存が子十河金次郎
 の甥あるなり。ととせりく養子とある。時に永禄六年之也。長慶悲歎の迫り。務と廢
 るで終りける。翌八年卒しけり。ぬれ久秀信長行之將軍を輝ことと悟と潜れ兵と徴
 て、松永永と滅さんとする。流説あると因て松永久秀その子久通と好日向守長縁
 及び下野寺康政親友主税助左通と彈らひ長慶の遺言を継ぎを擁し。兵と潜て
 系に入り。夜ふまぐ御常を襲ふ義輝躬ことと拒ぎ火と縱て自殺しのみ
 附くこの二年、其の長慶死後の後より義継のやう幼弱なり。當年長慶が死を

大日本帝國